



# 老いてこそ我が道をゆく みたら団子

人権教育啓発ドラマ  
(平成15年度ストーリー公募作品より)

■キャスト

神山 繁 鳳 八千代  
あいはら友子 三島ゆり子  
大沢あかね 高岡建治

大江千里



■出演協力

大阪府民の皆さん

監督 都築一興

企画・製作 / 大阪府教育委員会 制作 / 電通関西支社  
製作協力 / (財)大阪府人権協会 制作協力 / 放送映画製作所 東通企画



〈映画ストーリー〉

勲(71歳)は、妻を亡くしてから一人で暮らしはじめて10年。近くに住む娘の有子(43歳)が週に一度、勲の身のまわりの世話をするためにやって来る。勲は「川柳の会」でハル(72歳)と出会ってからは毎日が楽しい。ある日、ハルの「老人ホームに入ろうかと…」という言葉聞いて、ハルとの結婚を決意した。

「川柳の会」の仲間の神田雅司(68歳)・文(65歳)夫妻は、気のあった仲間とたがいに助け合いながら住むことのできるグループホームを作ろうと提案していた。

川ぞいの道を手をつないで歩く勲とハル。勲の孫の瑞穂(17歳)とボーイフレンドの周平(17歳)が偶然に出あって、二組のカップルは意気投合する。

勲は有子に、ハルと結婚したいと伝えるが、「恥ずかしくて外も歩かれへん。絶対にあかん!」と一蹴される。瑞穂は「なんで、お母さんがおじいちゃんの結婚を決めるんよ? 自分のことは自分で決める、いつもそう言うてるんはお母さんや。結婚も大学も就職も自分のことや」と反発し、勲の応援をする。

このような中、神田夫妻が提案したグループホームを建設するため、勲は自分の家と庭をつぶす決意をした。計画を聞きつけた有子は、「そのおばあさんとつきおうてから何もかもがおかしくなった。」と勲につめよる。

勲は「年寄りだからって何もできないなら、死んだほうがまだ」と叫び、自分の家の玄関にすわりこむ。神田夫妻や川柳仲間など、多くの老人が勲の家に集まる。ハルは迎えにきた息子の幸司に向かって言い切る。「静かでおとなしい年寄りなんて我慢しているだけです。生きてるんやから好きも嫌いもある。やりたいことも行きたいこともあります。」

翌朝、勲の家の縁側で楽しそうに笑いあう勲とハルの様子を見て、有子は夫に「お父ちゃんあんな顔できるんやな、あんなうれしそうな顔、初めて見たわ…」としみじみとつぶやいた。

「老いてこそ…我が道をゆく…みたらし団子」。二人で川柳を詠む勲とハル。二人の前には、自分たちで選び取った道が続いている…。



大阪府教育委員会 地域教育振興課

〒540-8571 大阪市中央区大手前2 電話06-6941-0351 内線(3465)  
ホームページアドレス  
<http://www.pref.osaka.jp/kyoishinko/chiikikyoiokushinko/index.html>

# 老いてこそ我が道をゆく みたらし団子

## 研修ワークシート

### ●参加体験型学習

参加体験型学習では「参加者に力がある」と表現されることがあります。学習に参加する人それぞれが経験や考え方などの「資源」を持ち寄り、話し合いを進める中から、たがいの理解や気づきを生み、一人ひとりをエンパワメントすること（持っている力を引き出し高めること）が参加体験型学習の目標です。

このワークシートは、人権教育啓発映画「老いてこそ我が道をゆくみたらし団子」と「動詞からひろがる人権学習」（大阪府教育委員会作成の人権学習教材）を連動させて学習するためのヒントになるシートです。

### ★活用事例（構成）〈約120分〉

時間	活動	留意点
5分	研修の目的と概要の説明	●無理をせずに自主的に参加することの大切さを伝えます。 ●研修の最初にアウトラインを提示することで、参加者の研修への参加意欲を高めます。
10分	アイスブレイキング 2人の対話に移れるようなアクティビティを実施します。	●この段階でのアクティビティは、参加者の心をほぐすものを選びます。2人1組になるよう薦め、簡単に互いの自己紹介をしてもらうだけでもかまいません。
5分	エピソード「暮らす」の読みあげ	●黙読では、個人によりスピードが違いますので、進行者が参加者が読みあげるようにします。
5分	2人1組での対話	●エピソードを読んでどんなことを感じたのか自由に話し合います。
10分	グループでの対話 「暮らす」というエピソードにある課題は何かを話し合います。	●先ほどの2人の組をグループに広げて、話し合います。 ●グループごとに課題をまとめます。
54分	「老いてこそ我が道をゆくみたらし団子」の視聴	●あらかじめ、視聴後にグループで話しあってもらうことを伝えます。
10分	グループでの話し合い	●「暮らす」を読んでグループでまとめた課題と、映画視聴後に感じたことをグループで整理します。
15分	各グループの発表	
5分	ふりかえり	

### ●「動詞からひろがる人権学習」

#### エピソード

いさおさんは、71歳。はるさんは、72歳。二人の出会いは、3年前の秋。はるさんがはじめて、投句していた俳句雑誌の定例句会に出席した日からはじまりました。いさおさんはその俳句雑誌の編集を担当する同人でした。俳句をはじめて年数の浅いはるさんにいさおさんはていねいにアドバイスします。句会のあとなど、お茶を飲んだり、食事をしたり、二人はゆっくり、ゆっくり、お互いを知ることにも努め、できるだけ一緒に過ごす時間をつくってきました。

いさおさんから「結婚して欲しい」という言葉を聞いたとき、はるさんは驚きました。「この歳で結婚なんて」と、及び腰のはるさん。でも、いさおさんは、現在一人で暮らしている家を増改築して、俳句仲間の二組の夫婦と一緒に住むという計画を立てていました。いさおさんとはるさんを含めて三組の夫婦が、共有するキッチンや居間を中心にして、それぞれ独立性をもったスペースに暮らそうというのです。バリアフリーの設計にすると融資が受けられるけれども、この年齢では多額のローンを組むのは苦しい。それは、あとの二組の夫婦も同様でした。それなら、気心の知れた俳句仲間と共同で出資し、一緒に暮らせば、何かにつけ負担を減らせるということになったのです。三度の食事づくりは、当番制にしたら手間が省けるし、時間の余裕や食費の軽減につながる。各自が購入している俳句雑誌や俳句関係の本なども、一冊で足りる。それに、体調を崩すようなことがあっても安心だ。そんな計画を聞いていると、はるさんは老後だと思っていた

# 暮らす

## この歳、いい歳

自分の暮らしが、急に生き生きとしたものを感じるようになってきました。いさおさんは早くに連れ合いを亡くし、子どもたちを独立させたあとは、一人で生活してきたのですが、そんなところにいさおさんの自立した発想の根っこがあるのかも知れないと、はるさんは思っています。

しかし、今のところ、二人の結婚にはいさおさんの子どもたちも、はるさんの長男も反対しています。

「結婚なんて、いい歳をして世間体が悪い。茶飲み友達のままでいいじゃないか」

「自宅を増改築して、他人と住むなんて。おやじが先に死んだら、その家はどうするつもり？」

「亡くなったじいさんがかわいそうや。墓はどうする気や？」

いさおさんは、「この歳だからこそ、残りの人生をはるさんと過ごしたい」と考えています。二人の時間は、はじまったばかりです。



#### 対話のために

- 高齢者の恋愛や性について、あなたはどのように思いますか？
- あなたが高齢者になったとき、どんなふうに暮らしたいですか？

#### 留意点

●活用事例はあくまでも参考です。●学習者の状態や人数、時間等を配慮して進めてください。●参加者一人ひとりの主体的な学びを尊重してください。